



The Bamboo Shoots

～地方季刊新聞～
大和高田リスモー都市友好協会 発行
2012年 夏号

No.156

連絡先:
大和高田リスモー都市友好協会
TEL: 0745-22-1101
http://www.city.yamatotakada.nara.jp/

このバンブーシューツ（筍）が大和高田市とリスモー市の情報交換に役立つ立派な竹に成長しますように

<子どもたちの絵 リズモー市へ>



大和高田市とリスモー市は、来年、姉妹都市となって、50年になります。

そこで、広報誌でリスモー市へ贈る子どもの絵を募集したところ、74点集まりました。サッカーをしているところ、友だちと遊んでいるところ、トマトの収穫、シャボン玉など、リスモー市の人に伝えたい思いが、画用紙いっぱい広がっていました。

子どもたちの絵には、ひとつひとつに、友好協会が、英語の紹介文を付けました。

そして、7月25日からリスモー市を訪問している派遣学生が、Jenny Dowell 市長に手渡ししました。

<派遣学生ら大和高田市 PR パンフレットを作成>

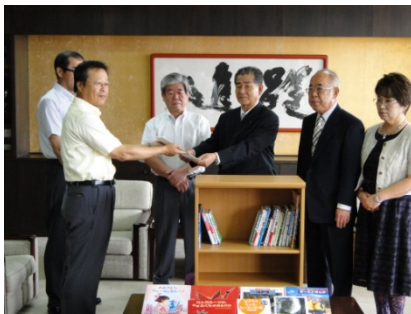


今年の派遣学生 5 人と引率教員が、来年姉妹都市 50 周年を迎えるのを機に、大和高田市を PR するパンフレット、8 ページフルカラーを編集、作成しました。



姉妹都市締結の橋渡し役となったパウロ・グリーン神父の活動、高田の千本桜、特産物、市立病院や図書館などの市の施設、食べ物、ファッション、スポーツなどが、英語で紹介されています。1000冊をリスモー市で直接、配布します。

<オーストラリア関連図書を寄贈>



6月27日、大和高田・リスモー都市友好協会は、市内の8小学校、3中学校、高田商業高校に、オーストラリア関連図書計139冊と書架を寄贈しました。寄贈された図書は、「アボリジニのものがたり」「オーストラリアの鉄道がわかる本」「シドニー！コアラ純情篇」などいずれも小・中・高校生向きのもの。

1963年に始まった、両市の姉妹都市交流は、来年50年を迎えます。そのなかで、交流の核となるのは、リスモー市との交換学生派遣です。今年が第26回となり、今までに派遣した学生は、昨年までに154人となりました。協会では、子どもたちがリスモー市やオーストラリア、英語などにいっそう興味を持ってくれるよう、今回の図書館寄贈を計画しました。今後も、毎年少しずつ図書寄贈を続けていく予定です。

<留学生「リズムーへ」>

今年も7月25日から8月7日までの14日間、5名の高校生と随行教員1名がリズムー市を訪れました。

留学生たちは初めてのホームステイで、緊張しながらも、ホストファミリーをはじめとした現地の人々との交流など、楽しく有意義な体験をしたようです。



1.リズムー市の街を見て感じたことは？

- ・リズムー市は、田舎だと聞いていたけど、高田とは比べ物にならないくらい都会だった
- ・リズムー市では人々がのんびりしていて、信号がなく、歩行者優先で、人が通るとすべての車が止まる
- ・店の人が日本と違ってみんなフレンドリーに話しかけてくれた
- ・自然が多い



2.良かった場所・印象に残ったことは？

- ・海が、見渡す限り辺り一面真っ青で、言葉では表しきれないくらいに、とても綺麗だった
- ・海にイルカやクジラがいたり、冬でも人が海に入っていて驚いた
- ・パイロンベイとゴールドコースト
- ・キャンドル・ファクトリー
- ・ニンビンの町並みが不思議過ぎて少し怖かった



3.文化・習慣の違いに驚いたことは？

★生活について

- ・日中と朝夜の寒暖差が大きくて、風邪をひいた
- ・日本みたいなお風呂ではなく、シャワーだけというのが、寒くて大変だった
- ・日本よりも空気がきれいで、日中暑かったけどジメジメしていなくて過ごしやすかった
- ・ティッシュが無かったり、誰か一人がお風呂に入っていると洗面を使えなかったりした
- ・あらゆる公園で、昼食を作って食べている人がいることに、驚いた

★学校について

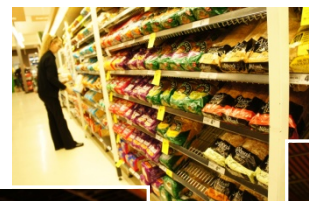
- ・とにかく自由でいいなと思った
- ・授業のノートをパソコンに打ち込んでいて、日本より進んでいると思った
- ・先生が教室を移動するのではなく、生徒が教室を移動する
- ・学生が学校生活をすごく楽しんでいた
- ・制服は、体操服のようなものだった。自分の制服の写真を見せると、スーツみたいと言っていた
- ・モーニングティー（10時くらいにお菓子などを食べる）の制度がいいなと思った
- ・日本語で話しかけてくれる子もいて、積極的に交流できた



4.ホストファミリーと一緒に過ごして

印象に残ったことは？

- ・みんなすごく親切で優しく、面白いひとたちだった
- ・英語が通じなくてもジェスチャーで会話が盛り上がるということがわかった
- ・最初の2日間くらいは、英語が聞き取れなくて、話せなかったけど、だんだんゆっくりとわかりやすく話してくれて、仲良くなれた
- ・家族のように温かく迎え入れてくれたことが、一番嬉しかった
- ・お土産で持って行った折り紙で切り紙をしたり、一緒にショッピングに行ったこと



[スーパーには豆腐などの、日本の食品も]

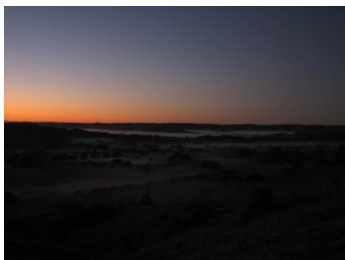


5. いちばん楽しかったことは？

- ・ドリームワールドで楽しんだこと
- ・コアラを抱っこしたり、カンガルーを触ったりしたこと
- ・コアラやカンガルー、エミューなどのオーストラリアで有名な動物を間近で見ることができたこと
- ・夢のような 14 日間を、ホストファミリーと過ごせたこと
- ・派遣留学生のみんなや先生と、リズモー市の多くの場所を訪れられたこと



[様々なキャンドル]



6. 今回の経験をこれからの将来に

どう活かしていきたいですか？

- ・自分の英語は、全然勉強が足りていなくて、習った文法でさえ話せなくてとても大変だった。だから、もっともっと英語を勉強して、会話ができるようになりたいと思った
- ・もっと英語を勉強して、ほかの国に行きたい
- ・このような貴重な体験をさせていただいて、視野が広がったと思います。何事もせまい範囲で考えるのではなく、広く色々な視点で物事を見られるよう、この経験を忘れず、ばねにしたい
- ・この経験を友だちに伝えて、楽しさを共有したい
- ・また、海外へ行く機会があれば、海外での生活に失敗しないように、色々なことを調べておくことも、必要だと思いました。



<留学に随行して>

片塩中学校教員 横井 弘子

まず、皆様の多大なるサポートとご親切に感謝申し上げます。おかげでリズモー市において、私たちは素晴らしい2週間を過ごすことができました。

大和高田市の人口に比べると6人という数字はとても小さく、単なる点にすぎません。しかしこの点は我々の友情の種であると思います。そして毎年この種をまき続け、友情の花が永遠に咲き続けることを願ってやみません。



<2人のマシュー先生>

今年度、大和高田市には2人の英語の先生、ALT (Assistant Language Teacher) がいます。マシュー・ロバーツ(Matthew Roberts) 先生と、マシュー・パーマー(Matthew Palmer) 先生です。

大和高田市内の8つの小学校と3つの中学校と、商業高校を分担して、4月から英語の指導にあたっています。



[マシュー・ロバーツ先生]



[マシュー・パーマー先生]



それぞれ、お話を伺いました。

マシュー・ロバーツ先生は、オーストラリア出身の32歳で奥様は、日本人だそうです。お寿司、たこ焼き、焼き飯が大好きで、日本に来て2年。オーストラリアでは普通、名前で呼び合うが、日本では、「～さん」と名字で呼ぶことが多い事など、日常の文化の違いはあるけれど、基本的にはお互いを尊重する社会で、日本は住みやすいそうです。日本の学生は、恥ずかしがる子が多いけれど、英語の授業で声を出して楽しそうな姿を見ると嬉しくなるそうです。夢は、素敵な家族をつくること！ です。

マシュー・パーマー先生は、ジャマイカ出身の30歳です。お寿司、親子丼が大好きだそうです。ジャマイカで、日本の空手や書道などの文化に興味を持ち、日本語を勉強して、単身で5年前に日本に来られました。ジャマイカの学生は、自身の考えや意見を主張することが多いけれど、日本の学生は、素直でおとなしく感じるそうです。文化の違いについても、日本の人々は周りの人と良い関係を保つために気を配っているが、ジャマイカの人々は、はっきりと自己主張するそうです。夢は、学生たちに学ぶことや、英語を使うことの楽しさを教えたい！ です。

<灯籠 今年のテーマは「絆の輪」>

7月21日に大和高田PTA協議会が開催した「こども夢街道」で、小学校、幼稚園の子どもたちが作った灯籠が、天神社の境内で火を灯しました。

今年のテーマは、オリンピックの年ということもあり、「絆の輪」でした。

灯籠は手作りで、ペットボトルの下部を切り取ったもの周りに紙を貼り、手形や絵、川柳などが書かれていました。

一人一人の思いが詰まった灯籠は、幻想的な光を醸し出していました。



<大和高田の名所>

第12回

今回は
「弁天座」を紹介します。



弁天座は、1910年に池端庄太郎氏、中川八太郎氏、宮崎亀石氏の3人が共同で、劇場を開業し、当時の人々の楽しみの場となりました。後に、改装して映画館になりましたが、2005年に大衆演劇場「弁天座」となりました。

客席は、約120席あり、毎月劇団が入れ替わり、昼と夜の部の2回公演を行なっています。1部のミニショーから始まり、2部の演劇、3部に舞踊ショーがあり、約3時間半の舞台に観客は大喜びです。一座は、約10～15名の団員からなり、1か月間公演をして、また次の場所へと移動していきます。衣装や道具も、お芝居によって変わる為、10tトラック2台ほどの大移動となります。10人の役者がいれば、かつらだけでも約300個になります。毎回、楽しみに来るお客様も多く、大和高田市の人気の娯楽の場となっています。

